唐丹の歴史いろいろ(十二)

大船渡市
木村正継

仙台藩主五代吉村の気仙巡視　二

この後、宿亭主市兵衛にも白鴈一羽拝領させたことや吉村が越喜来出発の頃持病の疝気を病み吉浜迄は不調だったが、峠越えで体を動かしたせいかすっきり全快したこと、その後母達からの書状で家族の様子を知ったこと等が詳しく記録されています。

以下、本文に戻る

一　今日案内日頃市村平内と申者歩行にて此所迄供申候。直々所々の様子村浜、山の名迄これを相尋ね、此所より境目見分に相越候節には唐丹村の肝煎一人、平内に相加候て召され候事

十三日…●中略：

一　午刻（正午）花露辺浜一覧の為歩行にて出候。肥前殿、刑部始歩行いずれも近習供に召され候。宿より六、七町東浜也。

此所に於て肴役人二人ずつ相詰居仙台へ相廻候用肴並びに献上の生干鱈等挺（ぬき）候会所一覧浜に於て阿賀益石の珍らしくこれを拾い後に休息帰候事。花露辺浜にて肴役人共目見え、小姓組披露に昨日案内申候日頃市村平内、当所肝煎今日も供に召され候事

一　帰り候節、船にて海上一覧申すべき旨仕りたく申付候処、俄に風出船出し申すべき様これ無き由申候故、最前参り候山道歩行にて帰り候事。

一　八半時（十五時）過夕飯を進ず左近、玄什、縫殿助、道説、茶道茶弁當これより「帰るさに　又こそ越め　爰（ここ）にしも　今日は山路の　つかれ休めて」「くるしきも　よしやいとわし　立帰り　又も越えべき　山路ならば」

…中略：

一　五時（八時）前、唐丹浜発足、羽織股引宿亭主市兵エ門前に於て目見え直々小白浜片岸と申所迄案内仕候。右の濱に小貝盆石これを立てる。

一　今日就覚照院殿御月忌終日精進。

一　夜に入り宿の亭主市兵衛に詠歌二首堅紙二行

これを拝領申付候。

近習田村左覚・郡司奥山甚助引添申渡候。

一　亭主佐久間市兵衛に下された歌二首「唐丹小史」

有る所と承候故道脇二町計の寄故、立寄申候。

此所にて暫時近習の者共集候て小貝盆石等これを拾い、是より直々歩行肥前殿、刑部いずれも歩供仕り荒川峠鍬台共歩行にて越申候。案内市兵エはこれより相返し候。

此間鍬台峠の上のすそ野にて休息いずれも餅等振廻候。その外、所々にて少しずつ休上げ申候。

一　右峠より檜山五葉山見る三社権現也、中尊弥陀薬師観音左右愛染虚空菩薩の由也。右山にこれ有る松皆五葉の松の由也。

一　鍬台峠下り口右の方に鷹場これあり。

一　花露辺浜・唐丹浜・小白浜・片岸浜・山谷村荒川浜・大石浜右是を唐丹七カ所という由

一　唐丹古館千葉長門守古館の由、館の名は相知れず候由、母木内これを申上。

一　昼、吉浜手前根白浜と申候所海道より五町余左の方にこれ有り浄土眞宗帰命山眞正寺へ立寄此寺八塚正楽寺支配の由住持にこれを尋ね浜辺等迄一覧申し此所に根白ケ崎有弁才天堂有り、直々四半時（十一時）過、吉浜検断市兵エ所へ入り候。

一　根白ケ崎向、越喜来の内こうべカ崎見ゆる此崎を名号カ崎共いう六字名号岩